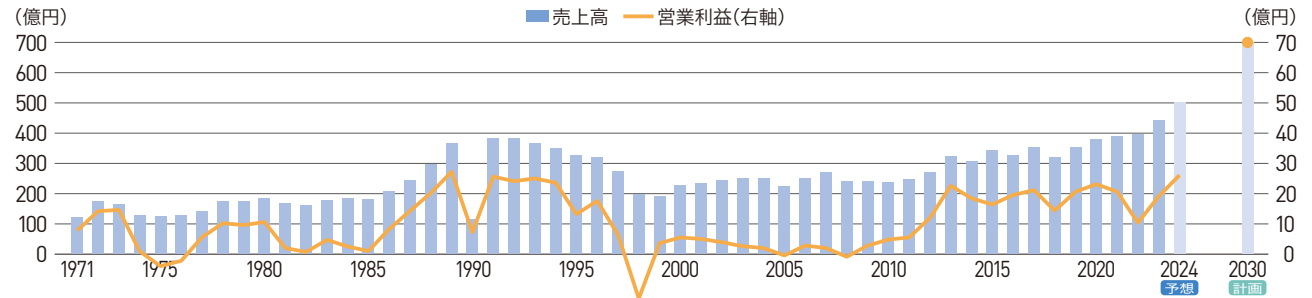


■日エグループにおける価値創造の歴史

1919年、ショベルやスコップ、ツルハシ、建築用金物類の製造販売から始まった日エグループは、2019年8月に創立100周年を迎えました。お客様が抱える課題と当社が掲げるマテリアリティの解決を通じて、2030年ビジョンで掲げた目標売上高700億円、目標営業利益率10.0%、時価総額500億円の達成とその先の100年を目指します。



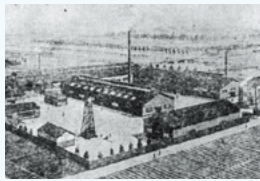
創業～

創業と戦後復興

- 1919年 日本工具製作株式会社設立
- 1921年 本社を明石市へ移転
- 1934年 第二工場新設、木柄の生産開始
- 1938年 第三工場完成、生産開始
- 1948年 第四工場竣工、鋳物の生産開始
- 1950年 リューセンハンドルの生産・販売開始
- 1961年 三菱重工業株式会社と業務提携、パイルハンマーフレーム等の製造を開始
- 1962年 東京証券取引所第一部に株式上場
- 1968年 社名を日工株式会社に變更

外部環境：戦後の旺盛な復興需要

- 1923年 関東大震災
- 1939年 第2次世界大戦(～1945年)
- 1956年 日本道路公団発足
- 1964年 東京オリンピック開催
- 1965年 名神高速道路全線開通

創業当時の
本社工場

1970年～

事業の拡大と高度成長期

- 1970年 アスファルトプラント新工場が稼働
- 1973年 矢野記念館竣工
- 1974年 西ドイツ・ベニングホーヘン社と技術提携
- 1974年 オランダ・フィリップス社と技術提携
- 1979年 米国ボーイング・コンストラクション・イクイPMENT社とドラミキで技術提携
- 1986年 東京サービスセンター開設
- 1989年 協力工事店組織アキツ会を結成
- 1989年 アメリカ駐在委員事務所開設

外部環境：バブル経済と環境意識の高まり

- 1970年 日本万国博覧会開幕
- 1972年 東北自動車道(岩槻～宇都宮)開通
- 1978年 成田空港開校
- 1983年 中国自動車道全面開通
- 1988年 瀬戸大橋開通



江井島工場

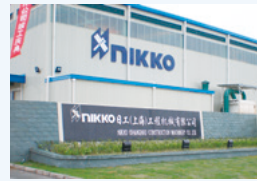
1990年～

多角化の推進と
グループ経営の強化

- 1991年 開発技術センターを新設
- 1994年 幸手工場が完成
- 2001年 日工(上海)工程機械有限公司を設立
- 2002年 (株)新潟鐵工所からアスファルトプラント部門を譲受
- 2004年 初の海外生産拠点「日工(上海)工程機械有限公司嘉定工場の竣工式
- 2006年 NIKKO (THAILAND) CO.,LTD.設立(アスファルトプラント・コンクリートプラントの販売、アフターサービス)
- 2006年 三菱重工業株式会社下関造船所からコンクリートポンプ事業を譲受
- 2008年 株式会社前川工業所をグループ会社化

外部環境：環境に優しい製品ニーズが拡大

- 1994年 関西国際空港が開港
- 1995年 阪神淡路大震災
- 1997年 京都議定書採択
- 2006年 神戸空港、北九州空港開港
- 2008年 リーマン・ショック



日工上海

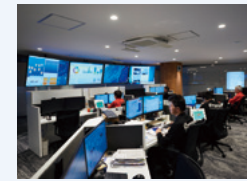
2010年～

攻めの経営へ転換

- 2011年 山推日工建設機械有限公司武漢新工場完成
- 2012年 西川貴久が代表取締役社長に就任
- 2012年 NIKKO (THAILAND) CO.,LTD.解散
- 2015年 ドイツ・KLEEMANN社の日本総代理店として活動開始
- 2015年 山推日工建設機械有限公司から撤退
- 2018年 テクノセンター(明石)を新設
- 2018年 モバイルプラント事業部始動(現破砕機関連事業)
- 2019年 辻勝が代表取締役社長に就任
- 2019年 創立100周年

外部環境：各種災害が甚大化

- 2010年 中国・上海万博開催
- 2011年 東日本大震災発生
- 2012年 東京スカイツリー開業
- 2015年 北陸新幹線(東京～金沢)開業
- 2015年 SDGs国連裁決

CSC(カスタ
マーサポート
センター)

2022年～

現中期経営計画と2030年
ありたい姿の実現に向けて

- 2020年 Nikko Asia (Thailand) CO.,Ltd.設立
- 2020年 NIKKO NILKHOSOL CO.,LTD.設立(現:Nikko Global Manufacturing (Thailand) Co.,Ltd.(略称:GMT))
- 2022年 中期経営計画(2022年度～2024年度)発表
- 2022年 宇部興機株式会社をグループ会社化
- 2023年 株式会社松田機工をグループ会社化
- 2024年 現中計経営計画最終年度
- 2025年 次期中計経営計画を発表予定
- 2030年 2030年ビジョン(目標売上高700億円、目標営業利益率10%)

外部環境：ポストコロナ時代

- 2020年 新型コロナウイルスがまん延
- 2021年 東京オリンピック開催
- 2022年 ロシアがウクライナへ侵攻
- 2023年 新型コロナウイルスが5類へ移行
- 2025年 高輪ゲートシティが開業
- 2025年 大阪・関西万博



GMT

日エグループの技術と製品の歩み

創業時から変わらぬ価値観を大切に、「一歩先行くエンジニアリングから、社会基盤をアップデートする。」をミッションに掲げ、お客様と社会の課題解決に貢献する技術開発と製品化を追求しています。

創業～

戦後の復興と建設機械分野へ進出

創業当時は、ショベルやスコップ等の製造販売を行っていましたが、1951年に横転式運搬機やウインチ、コンクリートミキサ等の建設機械分野へ進出しました。その後、戦後の復興に向けて、1956年にパッチャープラント、1958年にはアスファルトプラントの生産を開始しました。



第1号ショベルを生産 (1920年)



横転式運搬機等の建設機械分野へ進出 (1951年)



アスファルトプラント1号機を生産 (1958年)

1970年～

機械の大型化と公害防止ニーズが台頭

経済成長とともにプラントの大型化・高級化が進むと同時に、深刻化する公害に対するニーズが台頭してきました。海外からの技術導入等を進めることで公害対策、自動化等に対応した製品を提供してきました。



アスファルトプラント240t/hを開発 (1972年、現在でも国内最大級)



リサイクルプラントの開発 (1977年)



Uタイプコンクリートプラントの開発 (1977年)



コンパクトコンクリートプラントの開発 (1979年)

1990年～

震災対応ニーズの台頭と環境分野へ進出

1995年に阪神・淡路大震災が発生し、震災対応と高品質なコンクリート製品へのニーズが台頭しました。環境問題への関心の高まりを背景に環境分野へ進出しました。



缶ビン選別圧縮器「リサイクル4」 (1998年)



WELLターボバーナを開発 (2005年)



DASH-200Nミキサの開発 (2007年)



ダブルホットビンプラントの開発 (2009年)



省スペース対応ユーロタイプアスファルトプラントの開発 (2009年)

2010年～

海外市場の開拓に加え、コア技術を活用した環境関連分野を強化

2011年に中国山推日工建設機械有限公司の工場が稼働を始め、海外市場の開拓に向けた展開を進めました。脱炭素化ニーズの高まり等を背景に、環境貢献製品の強化を図るとともに、KLEEMANN社の自走式破砕機の国内独占販売契約を締結しました。



新型アスファルトプラント Value Packシリーズを開発 (2016年)



自走式破砕機 KLEEMANN 取扱開始 (2015年)



BP操作盤 Cyber Advanceを開発 (2018年)



自走式コンベヤ Trackstack 取扱開始 (2018年)



震災復興用プラントを開発 (2013年)



リサイクル合材主体 MBDシリーズを開発 (2014年)

2022年～現在

新燃料対応バーナの開発等を強化

脱炭素社会の実現に向けた技術開発に加え、AIや遠隔技術を活用した自動化・省人化等のお客様の課題解決に向けた製品開発を強化しています。



新型アスファルトプラント VPIV-Cloverを開発 (2022年)



国内初のアスファルト合材の遠隔出荷に成功 (2023年)



水素専焼でのアスファルト混合物の製造及び試験施工を実施 (2023年)



画像AI認識選別システムを開発 (2022年)

